

第1回総合計画審議会における主な意見等

1 清須市第2次総合計画の策定方針（案）について

- ① 基本計画では、その目指す姿と達成状況を評価するための「達成度指標」を新たに設けるとのことであるが、どの段階で誰が（どういう体制で）評価するのか。
- ② 「達成度指標」の評価については、事業の進捗度を測るような評価ではなく、事業を行った結果、目指す姿にどの程度近づいているのかという評価を行い、その結果をしっかりとフィードバックしてもらいたい。

2 清須市第2次総合計画の策定のながれについて

- ① 公募市民による市民参画会議では、本当の市民の意見やサイレントマジョリティの意見を吸い上げることができないのではないかと。
- ② 一番身近に、切実に地域のことを考えているのは地域の総代の方やその地域に携わった人たちであり、そういった方々の意見を生の意見として集約する必要があるのではないかと。

3 清須市の基本理念、将来像の検討について

[まちづくり全般・イメージからの意見]

- ① 立地環境を生かして将来的にも人口を増やしていくのか、それとも人口減少を前提とするのか。その辺りの意思を検討して、清須市らしさをどう出していくか。
- ② 昔からまちの形はほとんど変わっておらず、取り残された地域、停滞というイメージがある。進歩や進展、発展など、現状維持ではなく、変わっていけるようなまちづくりができると良い。
- ③ 行政はクレームを恐れてなかなか前へ進めないという体質を持っている。体を張ってやりきるといった指導者が必要。
- ④ 都会への魅力を感じる若い世代が多く、理由もなく東京などへ出ていく人が多い状況。
- ⑤ 合併から10年、まだまだこれからの“青年都市”であるという認識のもと、更なる改善・改革が必要。
- ⑥ 地域づくりの原点は、この地域を本当に好きだという人をたくさん作ることであり、地道に作っていくことが必要。
- ⑦ 団塊の世代の方々を中心に、日本のこれまでのストックを作ってきたいただいた方々のパワーを地域に還元し、地域の中に活かしていくことが重要。

- ⑧ 周りの市町との連携や、ご年配の方から若い方までの連携など、そういう形のものをもっと密にしないと、活性化にはつながらない。
- ⑨ 今の人たちのためだけではなく、20年、30年とずっと続く、清須市の未来へつなぐイメージを作りたい。
- ⑩ 名古屋大都市圏における清須というイメージをしっかりと持ち、その中でみんなが住みたくなる都市、これが清須である、というようなイメージを持ってもらえるように努力する必要。
- ⑪ 担税力のある若い世代に住んでもらうには、“都会さ”も追及する必然性がある。

[分野別のまちづくりからの意見]

- ⑫ 整備されてきた文化的環境を、いかに有効活用していくかを考えるべき。
- ⑬ 次世代を担う子どもたちをどう育てていくか。手本となる地域の人材を大切に育成していくことが必要。
- ⑭ 農業従事者の高齢化が進んでおり、10年後の市の農業が心配。よく考えていかないと市の農業は廃れてしまう。
- ⑮ 少子高齢化に伴う女性の社会進出によって希薄となる地域コミュニティをいかに守っていくかを意識する必要。
- ⑯ 高齢化が進む中、これからの10年はいよいよ大変な時代が来る。病気や介護になっても安心して住み続けられるまちになって欲しい。
- ⑰ 観光というのは人づくりである。自分のまちが好きだという気持ちをお客さんへ伝えることにより得られる感触をまちづくりに生かしていく必要。
- ⑱ 商店街の活性化は一朝一夕にはできない。やるなら本気になって予算を立ててやらないと無理。
- ⑲ 女性は日中留守にしがちであり、防災や防犯の充実が最も重要。
- ⑳ 日中地域に暮らす高齢者を防災や防犯の担い手として活用できないか。
- ㉑ 障害のある方が地域で安心して暮らせる住まいの場を確保し、社会参加できる場を増やしていく必要。
- ㉒ 地域住民の一体感の醸成が地域の受援力、防災力の向上につながる。
- ㉓ 防火の面からも安心して住めるような空き家対策を取って欲しい。
- ㉔ 災害に強いまちづくりに向けて、ハザードマップなどの住民への更なる周知と地域コミュニティの希薄化を防ぐ必要。
- ㉕ リニア開通は魅力であるが、市内の鉄道駅の利便性を改善する必要。